

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2711 号	氏 名	富岡 幸大
論文審査担当者	主査 瀧本 雅文 教授 副査 土岐 彰 教授 副査 泉崎 雅彦 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、右胃大網動脈(RGEA)と左胃大網動脈(LGEA)の吻合形態や太さに関する記載が解剖学書と外科手術書では異なっているため、その点を明らかにすべく形態計測学的手法を用いて解析し、RGEA と LGEA の比較検討を行ったものである。</p> <p>成人屍体 17 体(年齢中央値 82 歳 (68-95 歳)、男性 5 体、女性 12 体)を対象とし、RGEA と LGEA の長さの計測は肉眼的実測値で示されていた。また、RGEA 根部・LGEA 根部・吻合部の 3 カ所の血管横断面を実体顕微鏡で観察・撮影し、imageJ を用いて血管内腔の周長、断面積、長径を計測していた。</p> <p>結果として、長さは RGEA が約 26cm、LGEA が約 14cm で RGEA が LGEA より有意に長く ($p < 0.0001$)、平均周長は RGEA:約 7.4mm、LGEA:約 4.4mm、吻合部:2.7mm、平均断面積はそれぞれ 3.3 mm²、1.3 mm²、0.5 mm²、平均長径はそれぞれ 2.7mm、1.6mm、1.0mm であり、全ての項目で RGEA は LGEA よりも有意に大きい数値を得た、と報告された。</p> <p>このことより、RGEA は LGEA より有意に太く、且つ、長く、また、大部分の RGEA と LGEA は、それぞれ起始部から吻合部にかけて徐々に細くなりながら胃体中部大弯側で吻合することが明らかとなった。</p> <p>本論文は新しい知見を得ており、学術上価値があり、学位論文に値すると判定した。</p> <p>論文題名： Morphometric and quantitative evaluation of the gastroepiploic artery (胃大網動脈の形態計測学的検討)</p> <p>掲載雑誌名： Okajimas Folia Anatomica Japonica Vol. 92 No. 2 2015 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)